

中央鉱山保安協議会 議事要旨

1. 日 時：令和6年3月1日（金）10：00～11：05

2. 場 所：経済産業省本館17階第一特別会議室、Teams 会議

3. 出席者：

（学識経験者）

福井委員（会長）、五十嵐委員、所委員、原委員

（鉱業権者代表）

安藤委員、杉津委員、長谷川委員（代理：櫻井氏）、松本委員

（鉱山労働者代表）

浅見委員、岩渕委員、小河委員、浄土委員

4. 議 題：

【審議事項】

（1）鉱山保安法令のアナログ規制の見直しについて

（2）鉱業上使用する工作物等の技術基準を定める省令改正について

【報告事項】

（3）第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について

（4）特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針（第6次）の取組状況について

（5）令和6年度鉱山・火薬類保安関連予算案について

（6）CCS事業の制度化の検討状況について

5. 議事概要

会議冒頭、福井委員が協議会会長として選任された。

（1）鉱山保安法令のアナログ規制の見直しについて

● 事務局から、鉱山保安法令のアナログ規制の見直しについて説明を行った。

● 各委員により質疑等が行われた後、内容について了承された。

（委員からの主な意見）

・ 規制のデジタル対応を積極的に進めていただきたい。見直しを進めるとともにデジタル化が実施しやすいようなプラットフォームを構築していただきたい。

- ・無人化できるところは無人化する等、デジタル技術を取り入れることで作業現場の負担軽減につながると考える。
- ・今後、技術開発に注力して進めていただきたい。
- ・鉱山におけるデジタル技術の利用に関しては、防爆についても留意すべき。

(2) 鉱業上使用する工作物等の技術基準を定める省令改正について

- 事務局から、鉱業上使用する工作物等の技術基準を定める省令改正について説明を行った。
- 各委員により質疑等が行われた後、内容について了承された。

(委員からの主な意見)

- ・MARPOL条約等の国際条約の改正に伴った対応をするべき。

(3) 第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について

- 事務局から、第14次鉱業労働災害防止計画の取組状況について説明を行った。

(委員からの主な意見)

- ・保安全管理マスター制度について、鉱山の保安の確保、人材育成の目的で実施しているが、引き続きのご支援とご協力をお願いしたい。
- ・災害について、令和5年は非常に厳しい状況。これまでに起こった災害がまた起きていて感じる。過去の災害対策事例を再度鉱山労働者に周知し直すことが重要と考える。令和6年は減少傾向になるよう、協力していきたい。

(4) 特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針(第6次)の取組状況について

- 事務局から、特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針(第6次)の取組状況について説明を行った。

(委員からの主な意見)

- ・鉱害防止事業は、基本方針に沿って取り組まれているが、その取組の情報を広く公表していただきたい。
- ・坑廃水処理のパッシブトリートメントについて積極的に取り組んでいるが、基礎を確固たるものにし、次の10年間に坑廃水の種類ごとのパッシブトリートメントの体系化に向けて取り組んでいただきたい。
- ・第6次基本方針の取組について、各事業所をまわり現場の意見を取り入れて、現場に即した内容になっている。昨今、人材不足であるため、省人化・無人化

を目指した技術開発を積極的に進めていきたい。

(5) 令和6年度鉱山・火薬類保安関連予算案について

- 事務局から、令和6年度鉱山・火薬類保安関連予算案について説明を行った。

(6) C C S 事業の制度化の検討状況について

- 事務局から、C C S 事業の制度化の検討状況について説明を行った。

お問合せ先
経済産業省 産業保安グループ
鉱山・火薬類監理官付
電話：03-3501-1511(4961)